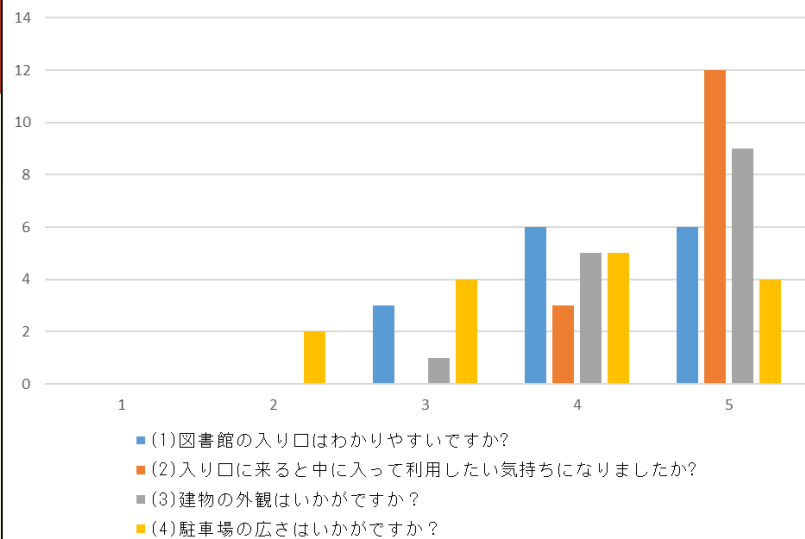


瀬戸内市民図書館視察 レポート



四万十町文化的施設検討委員会において平成30年3月4日に視察を行った岡山県瀬戸内市民図書館での視察の感想等についてのとりまとめを行った。

図書館に入るまで



【入口】



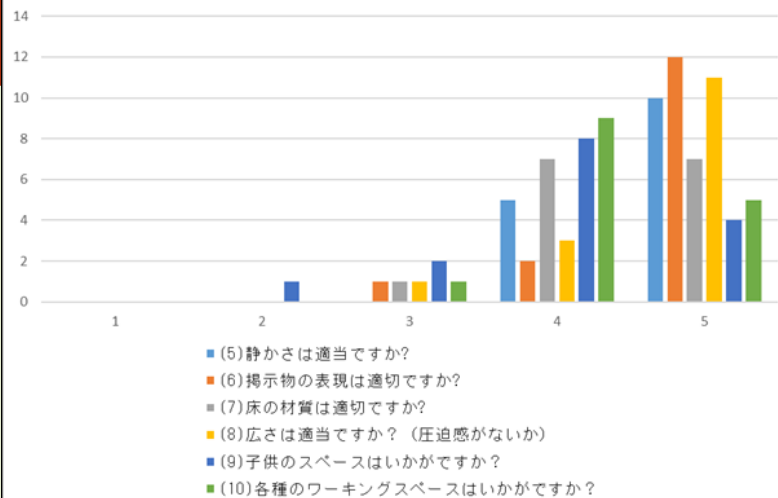
【入口憩いスペース】



【入口カフェコーナー】



館内について



【一般書架と地域民具展示コーナー】



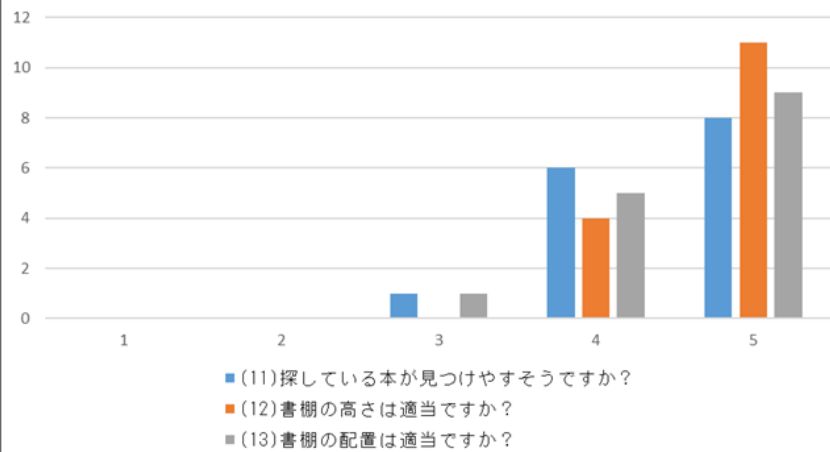
【雑誌コーナー】



【地域歴史コーナーと中庭風景】



書架について



【こども書架①】



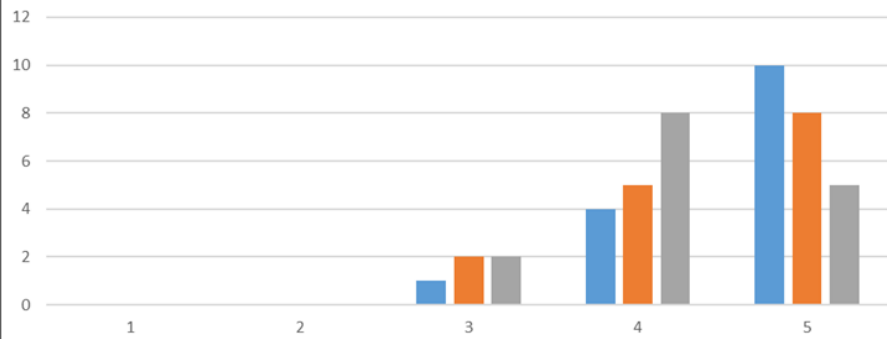
【一般書架】



【こども書架②】



読書席について



- (14) 読書席には長く座って読んで居られそうですか?
- (15) 机や椅子は使いやすいですか?
- (16) 机や椅子の数は適切ですか?

【入口飲食・休憩コーナー】



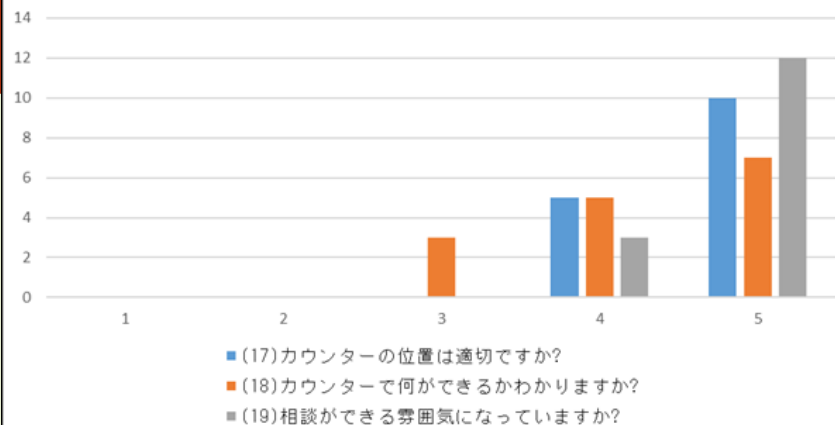
【読書席】



【インターネットコーナー】



カウンターやスタッフについて



【2階カウンター】



【1階カウンター】



【そうだん・コピーコーナー】



➤ 《その他施設》

【巡回バス】



【書庫】



【書庫】



【収蔵庫】

▶ 《その他施設》

【地域の歴史コーナー】



【地域の民芸コーナー】



【地域の資料コーナー】



【放送大学コーナー】



《視察を行った委員さんの感想①》

【感想】

- ・外観のつくりはガラスで壁をなくしているので明るく光を十分に採っているのが好感が持てたが、カーテン・ブラインドが設置されていないように思えた。設置されていないなら夏場の日射に対しての室内に対する環境が憂慮される。
 - ・公民館を併設しているので利用度は単独の建物と違い、増加する可能性は条件として整理されている。
 - ・陳列棚も間隔も計算されての設置と思うので申し分はないが、裏側のスペースをもう少しとって表側と同じようにすればいいように思えた。
 - ・館長の公募なり、人選を早急に検討して、決定してはどうでしょうか。
 - ・建物ができるまでに随分と作業があり、その事を確立してないとオープン時に無理が生じるはず。
 - ・瀬戸内市も2011年に公募し、不調・震災の影響があって2016年のオープンまで5年を要したが、その間に十分な準備をしたと思います。館長も早く決めたほうが良いとの返答でした。
- 有意義な説明と視察だったと思います。

【感想】

全般的に、すごくよく計算された設計となっていたと思います。圧迫感のない広い空間を実現し、なおカフェスペースや展示スペースを的確に配置できており素晴らしい内容だったと思います。ぜひ四万十町で作る際にも生かしていただきたいですが、少し面白みがない感じがしました。また、子供エリアなどにも少し子供たちがワクワクできるようなものがあるととってもいいと思ったのとスペースがもう少し広く場所の位置も何とか出来れば面白いと思いました。通路は広く1階にあった外を見ながら読書ができるスペースは四万十町にもぜひ欲しいと思います。（借景を楽しむこともいいかと思います。）

人がどれだけ楽しいと思えるかまた来たいと思えるかが大切だと思います。書籍自体の魅力が十分発揮できるようなおしゃれな店舗的にできればいいと思います。基本に忠実な設計にするのか、少し他と違う個性を出すかで大きく設計が変わると思いますが、できればあと100年たっても来てくれる人が面白いと思えるものが、あれば観光資源しても活用ができるようにも思います。建物は現在の財政事情を鑑み鉄骨での一部CLTなどを取り入れたものが價格的にも望ましいと思えますが、内装や展示スペースには工夫をしておく、基本館内にて多くの方が使うため外観よりも内観に力を入れておけば利用者の満足も得られるものと思います。

多くの方が活用で来るところの製品は、できるだけよいものを入れていければ使い勝手もいいため作業効率も上がりますし、製品も長持ちするのでお勧めです。

また、外部にはたぶん地域のこどもが作ったタイルが貼られていてそんな地域住民とのふれあいのスペースもあると多くの方にご利用をしていただけたらと思います。

駐車場ですが四万十町民は、車生活だと思えるため多くの駐車場をもいけるのは必要な点だと思います。

昇降時に庇付きの通路があると雨の多い四万十町では重宝するのではないのでしょうか。

以上ですが、気づいた点をなんとなく書いてみました。

《視察を行った委員さんの感想②》

【感想】

街並みに溶け込みながらも人目を惹き付ける瀟洒な外観。女子高生数名がピクニック気分でお弁当を広げたり、風船バレーを楽しんだりしていた「オリーブの庭」。非日常の空間に招かれたようにゆったの気分を味わった「もみわかフエ」。程よい展示で古い資料の一つ一つに新たな息吹が感じられた「せとうち発見の道」。

ポップなイラストに身を包み、ファンタジーの世界を届ける「せとうちまーる号」など・・・。
目に触れる全ての物や空間に、まちの文化の中心として、思い思いにゆったのと過ごせる居心地のよさが感じられました。

そして、四万十町にもこんな素敵な場所ができれば、どんなにか毎日が楽しくなるだろう、誰もが人や資料や知との新たな出会いにときめき、町にも新しい風が吹くだろうと感じ、想像しただけでワクワクしました。

そのためにも、瀬戸内市民図書館のように、しっかのとした基本理念をもち、それをみんなで共有し、実現するための明確な指針を決めなければならないと感じました。その揺るぎない土台ができれば、こだわるところも自然に決まってくるように思います。

瀬戸内市民図書館が開館するまでの6か年間の取組を館長さんから伺いし、四万十町が取組もうとしている文化的施設建設の過程には、「まちづくり」と「人づくり」の両方の可能性が込められていることを改めて感じました。

様々な世代の方々の夢や願いが詰まった地域に合致した施設づくりにしていくためにもワークショップの持ち方等にも工夫が必要だろうと感じました。

今回このような視察の機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。勉強になりました。

【感想】

利用者の立場から、施設を作ろうとしているのが感じられました。

近くに文化施設があって、ロビーコンサートなど文化活動が行われているのも良い。
書架のいたるところに椅子などがあり、つい本に手を取って読み込んでしまいそうです。

日曜日に小学生、中学生、高校生の読書調べ勉強などに活用していた。

居やすい空間になっていると思った。年代に応じて活用する仕込み（小さい時から貸し出し習慣をつける）などの見えな
い仕組みがある。

飲食しながら本を読む空間は広めにとったほうがうれしい。

明るい空間でなくてはならない。窓も大きく窓からの景色も大事な要素。清潔であること。

とても良い研修になりました。参加させていただきありがとうございます。

《視察を行った委員さんの感想③》

【感想】

図書館に持ち寄ってもらって、図書館で見つけてもらって、皆の気づきを分け合ってもらいたいという思いからつけられた市民図書館“もみわ広場”。本当に素晴らしい図書館だと思いました。

図書館の計画作りから市民の方に参加してもらって何度もワークショップ「としょかん未来ミーティング」を開催してきた結果ですね。

子供編として中高生と企画会議を行い、2日間にわたって開催したワークショップに大勢の子供が参加したということもすごいことだと思います。子供の声をしっかりと聴いて、子供からの声でできたというチャットルームには、子供たちも喜んだことでしょう。館内を回っている間に自然に目に入る、そういう展示の仕方を心掛けているとおっしゃっていましたが、回っていて実感できました。市民図書館が中心になって展開している各施設への移動図書館もうれしいですね。

「どくしょつうちょう」のデザインもいいなあ・・・と思いました。

館内で本を取って椅子に座り少し読んでみましたが、周りが気になることもなく時間が流れました。

今回の視察を終え、たくさんの時間をかけて四万十町に合った、みんなから愛され親しまれる図書館を作る大切さを痛感しました。子供から高齢者まで住民の要望をしっかり聞き、研修を重ねていくことが大切ではないでしょうか。

【感想】

瀬戸内市民図書館の館長さんからのお話が大変内容の濃い興味深いものでした。

図書館全体を見ても、その機能や利便性、雰囲気、外観、そして図書館バスをはじめサービスすばらしいところばかりでした。

館長さんのお話の中で、これからの取り組みとして「バランスよくしっかりと図書を揃える」事を薦められておりました。利用者が最も図書館に求める魅力だと感じます。

1つのテーマを取っても、そこに関する図書は多種多様でピンキリで、その中からより良いものを見出し取り扱っていく事が必要になります。それにはすべての内容を確認し、目利きしていく時間と人もかかる事と思いますが、瀬戸内市民図書館の棚には、どのコーナーにも比較的新しく、興味深い図書が揃って、まさに宝の山でした。いかにそうした視点を大切にされ、熱意をもって仕事をされているかが分かり感銘を受けました。

情報提供のために形としてもサービスとしてもこだわりを持ち、困っている人にいかに情報を伝えるか工夫されている事などもお聞きし、図書館の仕事の幅広さも感じました。

人員も資金も本当に必要になることと思います。また、教職員のために資料が必要であるという話も共感・納得です。

先生の話は多くの生徒に知識として入るため、必要だと思います。

図書館で働く方々に対しての「意欲・教育・報酬」の話では、地元では特に時間と報酬が必要かと思いました。（窪川の職員さんは元々レベルが高いと思います。すばらしいです）

子連れで行きましたが館内外に遊ぶコーナーがあり、ゆったりした気持ちで過ごせました。

《視察を行った委員さんの感想④》

【感想】

A1：入り口が食い違い虎口のような形状で少し入りづらかった。進入路は直進が良いと思う。

A4：隣接の公民館と揃いのレンガ基調でおさまりが良い。周囲との調和はやはり重要だと感じた。

A5：市としてはやや手狭なのか、四万十町であればあの広さが十分ではないだろうか。

B6：子供がうろうろしている割には静かだった。

B7：表示などトータルデザインで見やすかった。郷土資料など、床に埋め込んだり壁にはめ込んだりしているのは良い。場所を取らず導線上にあるので人眼にも触れる。資料エリアを別に作るよりは、スペース的にも予算的にも場所を取らずよろしいのではないか。

B9：カートを押して歩けるぐらいの幅がある通路、複数の学習スペースもあってすごい広い。

C12：分類の仕方に最初戸惑ったが、慣れればこちらのほうが探しやすいそう。

D16：間隔をあけて配置してあるので座りやすかった。

図書館前の庭でシートを敷いてご飯を食べたり、風船バレーで遊んでいる若い人がいて、子連れのお母さんがいて、勉強している学生がいて、静かに本を読んでいるご老人がいて、しかもそれらが数多くいて、にぎやかな印象。飲食時に飲み物ありというのは今のニーズに合っていてよいと思う。

まあただ、市という条件と町という条件では集客の●数に差もあるので、四万十町の場合はどうするのか要検討

【感想】全体的に明るく、とても温もりのある建物で魅力的な図書館でした。

利用者さんも、若い学生など多くみられ勉強できる環境なんだなと感じました。児童室のおはなしの部屋や、子供たちがわくわくするようなつくりの、ゆっくり座って本を読める場所など、自館にもほしいなと思いました。ビッグブックの数も多く、地元の方の手作りだと思われる本などもあり繊細さに感動し楽しく見学できました。また、本の並びの表示も利用者さんから見てのわかりやすさを重視していて、探しやすいだろうなと思いました。参考にして取り入れていきたいと思いました。

ほかにも、雑誌の数に驚きました。お店や企業からの提供があるなんていいですね。巡回バスも2台あり活用されているようなので、四万十町も広いので巡回バスがあれば利用があるのではないかと思います。今日はとても勉強になりました。これからの図書館での勤務に活かしたいと思います。視察見学ありがとうございました。

《視察を行った委員さんの感想⑤》

【感想】

規模の差はあるかもしれませんが、目指すべき図書館のあり方が見えてきた研修になったと思います。

「施設」

- ① 外観は周りの環境とマッチし、公民館との調和にも配慮しているなと感じました。ただ、内部は図書館が非常に明るかったので公民館の暗さが際立ちました。
- ② 入口のカフェスペースは居心地良さそうでした。
- ③ 地域性の違いか、全体的に木のイメージは少なかった。四万十町ならもっと木にこだわった建築になるでしょう。
- ④ 天気も良かったが、館内が明るくいい雰囲気でした。本を借りるためだけの施設ではなく、図書館に行くことが目的になり、瀬戸内図書館が市民の日常に溶け込んでいける施設になっているなと感じました。

「運営」

- ⑤ 移動図書の手が2台あり、学校支援、地域支援に活用していることは大いに参考になりました。四万十町でも移動図書サービスを実施できればと思います。
- ⑥ 図書館といえば子どもたちの学びの場としての視点も大事ですが高齢者の「生きがいづくり」・「学びの場」の視点も大事であり「認知症にやさしい図書館」というコンセプトもいいヒントになりました。
- ⑦ 郷土資料についてもコーナー展示だけではなく回遊的展示と企画展という複合施設ならではのやり方は四万十町の郷土資料展示についても参考になりました。

「その他」

- ⑧ すぐ近くに高校があり、学生が日常的に活用できる環境は非常に良いと思った。
- ⑨ 図書館長を公募し準備段階からプロの目線で参画していったことはよかったと思う。
- ⑩ しっかりしたコンセプトで構想・計画を作り、それをしっかりした設計者が具現化していくこと、そしてしっかりした体制で運営していくことを図書館整備の留意点としてしっかり心に刻み込みました。

【感想】

先日はお忙しいなかをご説明いただき、また図書館の内部を見学させていただきましてありがとうございます。館内は明るく、広く、若い方たちがたくさん来られていたような印象があります。また、図書館にカフェというと、どうしても本が汚れてしまうのでは！という心配もあるのではと思いましたが、実際拝見させていただいて、利用者の方もそういったことのないように利用されているように感じました。郷土資料の展示や書架の前にも工芸的な資料（郷土資料ですかね！）を展示されるなど、非常に興味深くみせていただきました。そして、巡回バスも配備されておられるということで、四万十町も地域が広く、図書館までの距離がある地域も多くありますので、現在検討をしております、文化的施設の検討のなかでもそういったことの検討もしていきたいと思いました。私は写真を専門に撮らせていただいておりますので、そちらで精一杯で実際に書架で本を探したりすることができませんでしたが、今回見学させていただいたことを参考にさせていただいて、新しい施設の検討に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

《視察を行った委員さんの感想⑥》

【感想】

先日はお忙しい中どうもありがとうございました。1時間でしたが、館長さんのお話で“もみわ広場”の概要がとてもよく分かりました。私が得に印象に残りこれからの図書館運営の参考にさせて頂きたいと思ったのは、やはり資料の配架の仕方です。

今自館では十進分類法の順番で並べていますが、私も以前から分類内容が似ているのに離れているのは利用者さんも気づきにくいのではと思っていましたので、“もみわ広場”さんの配架の仕方はとても斬新で、分類番号順に並べなくていいんだと目から鱗がおちました。そしてまだまだ自館でやる事が沢山あると分かり楽しくもなりました。また郷土資料の展示を図書館で行っているのも新しい図書館だと感じました。四万十町の新しい複合施設でも郷土資料館と図書館、2館が定期的に両館併せた企画展示を行いたいと思いました。

実際にお伺いして、ホームページ等の写真からの“もみわさん”のイメージは想像と違い、いい意味で主張しすぎていませんでした。（外観が派手ではなかった）日曜日だったので、若い方も多かったように思いましたが、カフェコーナーでも皆さんマナーを守られくつろがれていましたし、2階の1列の長い席も多く若い方がヘッドフォンで勉強されていたのも印象的でした。また一人でゆったりすわれる椅子も多く、図書館にくつろぎに来たいと思われて来られているのが良くわかりました。

四万十町も3つの町村が合併したため高知県では一番広い町となりました。その為図書館に自力で来られる人は少なく（特に子どもたち）町民のみなさんに公平な図書館サービスはできていない状況です。今後は瀬戸内市民図書館さんのように移動図書館やシルバーさんをお願いする学校図書館の便は是非四万十町でも実施したい、課題にしたいと思いました。住民の方からの希望でした、ネットでの蔵書検索も出来るようになりましたので、今後は四万十町内すべて人に図書館サービスをそして文化の提供ができればと思います。

【感想】

とても有意義な研修でした。

当館でもすぐ真似ができるところは少しずつ改善していけるとは思います。

やはり、当館は「図書館」として作られた建物ではないので、真似できる範囲も限られます。

新図書館を建設するようになっていけば、計画の段階から町民の皆さんの意見を取り入れる方法など、

たくさんのお手本にすることができるとは思いました。

館内や設備なども利用者さんが使いやすいように、スペースや配架の工夫がたくさんされていました。

とても参考になりました。

《視察を行った委員さんの感想⑦》

【感想】

到着時の外観から大変驚きました。施設の周りには子どもたちや家族連れが集いこんな場所があることに入る前から羨ましく思いました。

館内のパンフレットや表示などもデザインがシンプルでわかりやすく図書館になじんでいて注意されているという感じがなく気持ちよく過ごせる館内でした。

館長さんの思いというものが地域の方、職員に行き届き、全体でしっかりした基本方針があることや町自体の目標と合わしあっていることなどが市全体のよさになっているのかなあと思いました。

図書館を必要のないものという町全体の認識をなくし初めから図書館はお金のかかる施設という考えにかえていろんな世代の交流や町全体の意識を向かせるマグネットが図書館と思える施設という理解にかわっていかねばと思います。

図書館に興味がなくとも楽しめる場所・そこに行って目的がなくともそこに行けば目的がなくとも行きたくなる、行ったら楽しい、立ち寄りたくなる施設になるといいなと視察に行き新しい図書館への思いが膨らみました。ありがとうございました。

【感想】

サインが面白く、通常なら「パン」のみのところを「パン作りに挑戦」と棚の見出しに書いていて楽しくなるような分類でした。

分類番号順で全てを並べず、大きく「暮らし」などグループでかためていたりして、動線を考えられており参考になりました。しかし棚の見出しに分類番号がないので、書架へ戻す作業が難しくないのかなと感じました。

分類番号を知っている人は、慣れるまで見出しに分類番号がないと戸惑うかもしれないと思いました。チャイルドコーナー、線引きをどのようにされているのか。また線引きが難しそうに感じました。

雑誌の広告制度は取り入れたいと思いました。

カフェスペースのほか、しきられた勉強スペースや声を出せるスペースがあるのはとても良いと思いました。児童室も秘密基地のようなベンチがあり、すてきでした。